

8ベタ (流用)
or
(スミベタ)



関 厚一郎

SEKI, Koichiro

自治医科大学 麻酔科学・集中治療医学講座

奈良県出身

奈良県立医科大学・2004 年卒業

<所有資格> 12a ロダンDB (以下同)

麻酔科標榜医・認定医・機構専門医・指導医 /
経食道心エコー認定試験 (JB-POT) / 心臓血管麻
酔専門医 / 集中治療専門医 / ASCeXAM testamur /
Advanced PTEeXAM testamur / CCEeXAM
testamur

■座右の銘

思いの種を蒔き、行動を刈り取り、行動の種を蒔
いて、習慣を刈り取り、習慣の種を蒔き、人格を
刈り取り、人格の種を蒔いて、人生を刈り取る。

■医療に関する特技

大仏のような怒らない力

■これからの目標

循環器周術期診療に動しむ一方で、自分がたど
った技能取得を 10 年短縮できるような教育と、医
局長として医局員それぞれの人生に寄り添う新し
い医局運営の形を追及しています。私の場合は心
臓麻酔・TEE/TTE を足がかりに集中治療・周術
期循環器診療に携わることで、従来の麻酔科診療
に欠けていた「診断する」という医療行為を行っ
てきました。

どんな麻酔科のサブスペシャリティからでも、
集中治療の全身・全人的診療へつなげることがで
きます。サブスペシャリティを窓口に、集中治療
を経由し手術麻酔へ戻ることで醸成される、新し
い麻酔科医の姿を世に問うてみたいと思っています。
臨床研究の実践は、今一番の課題です。

■ message 12a ロダンDB (以下同)

医師 20 年目で大学医局に初めて所属するとい
うのは、きわめてまれなキャリアでしょう。ど
の選択肢が正解か悩むのではなく、選んだ選択
肢を正解にするのだとよく聞きますし、適切な
選択肢やタイミングは自然と降ってくるものだ
と今は感じています。人生、先のことは誰にも
わかりませんが、選択を受け入れる準備として
重要なことは、日々自分自身に誠実であること
にほかならないと思います。人付き合いもそう
得意でない私が、最終的に語るのは「縁」であ
るというのはとても不思議な気持ちです。

酔科専門医を取得して、さてこれからどうしよう。
サブスペシャリティ？ 研究？ 麻酔は楽しいし、どれもやってみたい。
結婚や出産はどうしよう？
先輩たちは、どうしてきたんだろう…？

みんなのプロフィール帳

◆ 医師を志した動機 ◆ 12a ロダンDB (以下同)

勉学はほどほどにバスケットボールに明け暮れ、

引退試合で膝の前十字靱帯 (ACL) を断裂。

重症である怪我を初めて経験し、スポーツドクターに憧れ医師を志す。

医学部卒業からこれまでの歩み

1 年目 (2004 年) : 奈良県立奈良病院 (現 奈良県総合医療センター) 臨床研修医
スーパーローテーション第一世代として、総合診療の重要性を讀める世間の風
潮にのり、自治医大卒業生の卒業研修を行っていた地元の病院にマッチング。
救命センター、麻酔科と急性期医療からローテーションを開始する。総合診療
科ではない全身を診られる医者として、手術麻酔・集中治療・救急診療での心
地よいスピード感と、五感とテクノロジーの統合に魅力を感じ、麻酔科を専門
にすることを決め、自分の可能性を広げるため東京行きを決める。

3 年目 (2006 年) : 聖路加国際病院 麻酔科・集中治療室 専門研修医
個性的な同期や後輩と知性あふれる上司、優しさや向上心あふれるパラメディ
カルに囲まれて、心臓麻酔とエコーガイド下神経ブロックに目覚める。

5 年目 (2008 年) : JB-POT 合格
JB-POT 講習会を受講し、講師陣の循環器診療への造詣の深さに感銘を受け、
憧れを抱く。試験には運良く合格する。

6 年目 (2009 年) : 心臓麻酔を目標にする
心臓麻酔に目標を定め、JB-POT 講師の一人である能見俊浩先生の元で学ぶ決
心をする。自分が追求してきた全身麻酔を見定めるような気持ちで、古傷の
ACL 再建術を受ける。同期と後輩に全身麻酔 + 大腿神経ブロックを行ってま
らい、快適な術後を送り、改めて麻酔科医の仕事の意義を身をもって知った。
聖路加と神経ブロックを卒業とした。

7 年目 (2010 年) : イムス葛飾ハートセンター 麻酔科
循環器専門病院で心臓外科手術麻酔に明け暮れる毎日を送る。Advanced
PTEeXAM 合格。

10 年目 (2013 年) : 麻酔科専門医 取得、自治医科大学にて研修
小児の心臓手術研修のため、自治医科大学附属とちぎ子ども医療センター
PICU へ短期研修。竹内護先生、多賀直行先生に指導を受ける。麻酔科が手術
麻酔を行うだけでなく周術期を管理するスタイルを成人に応用できないか、模
索し始める。

11 年目 (2014 年) : 心臓血管麻酔専門医 取得、医局長に
ハートセンター医局長を拝命し、より良い循環器診療のために集中治療の必要
性を痛感する。

13 年目 (2016 年) : ASCeXAM 合格

15 年目 (2018 年) : 再び ACL 再建術を受ける

対側の ACL も断裂していることが判明し、再建手術を再び古巣で受ける。通院中
に集中治療室の恩師 青木和裕先生に集中治療医として復帰の声をかけて頂く。

16 年目 (2019 年) : 聖路加国際病院 集中治療科
当初は短期間の予定であったがコロナ禍に突入し、岡本洋史先生の職場・組織
作り・新しい教育の方法に共鳴しつつ、コロナ禍という時代に反駁するため勤
務を継続する。循環器集中治療・周術期診療をライフワークと決める。

18 年目 (2021 年) : CCEeXAM 合格

19 年目 (2022 年) : 集中治療専門医 取得

20 年目 (2023 年) : 自治医科大学 麻酔科学・集中治療医学講座

コロナ診療がひと段落ついた世相の中、10 年前のご縁から竹内先生に声をか
けていただき、成人心臓麻酔の責任者として大学病院に赴任する。

21 年目 (2024 年) : 人生で 2 度目の医局長拝命

大学病院を襲う働き方改革とコロナ禍の後始末としての巨額の赤字解消という
二律背反に立ち向かい、目下新しい仲間探しと組織改革の真っ最中である。